



接種日当日～数日以内に現れる可能性のある症状

●注射した部位の腫れや痛み●筋肉痛、関節の痛み●頭痛●倦怠感、寒気、発熱 など

接種当日よりも翌日に痛みを訴えることが多く、接種後数日以内に回復します。疲労や関節痛、発熱などは1回目よりも2回目の方が、出現頻度が高くなる場合があります。

抗体カクテル療法

トランプ前大統領が、未承認ながらも行ったことで、耳にしたことがある方も多いかもしれませんが、海外の試験では、重症化(入院・死亡リスク)が7割下がったとのデータ

浜松市では4月末から新型コロナウイルスワクチンの一般接種が開始され、令和3年8月26日現在、日本のワクチン接種率は、65歳以上で1回目89.3%、2回目86.9%、総人口では1回目54.5%、2回目43.5%となっています。

接種対象者は開始当初、ファイザー社と武田/モデルナ社では、接種日に16歳以上となる方が、対象でしたが、現在では、接種日に12歳以上となる方に対象年齢が、引き下げられました。但し、アストラゼネカ社のワクチンは原則40歳以上で、接種の機会も限られています。

が有、今新型コロナウイルスの重症化を抑えるうえで大変有効とされているのが、**抗体カクテル療法**です。

日本では、中外製薬が世界で初めて製造販売の承認を取得し、令和3年7月19日に特例承認されました。

抗体カクテル療法とは、人工的に作った2つの中和抗体を交ぜて、効果を上げた治療薬のことです。

そもそも抗体とは、ウイルスにくっつき、ウイルスを無力化・弱毒化させることで体内での増殖を起させないようにするものです。本来、抗体療法は1つの抗体を使って行うのが一般的ですが、新型コロナウ

ワクチンの副反応

当日に現れる可能性のある症状

アナフィラキシー:起こることは極めてまれですが、薬剤が体に入ってから短時間で起こるアレルギー反応です。重篤な場合は、意識レベル低下を伴うアナフィラキシーショックを起こすことがあります。万が一アナフィラキシーが起きた場合は、その場でアドレナリン製剤(エピネフリン)が投与されます。投与すると、末梢血管が収縮し血圧を上昇させます。他に、気管支拡張、心拍出量増加も起こり、全身のショック症状を改善することができます。

ウイルスは増殖が速く、自身の持っている抗体や1つの抗体だけでは、追いつかない可能性があります。また、ウイルス変異が起こると、入ってきたウイルスに対して抗体が反応しないため、変異を起こす前に、2つの抗体を使ってウイルスを抑え込むことが大変重要なのです。よって、投与対象となるのは、増殖が大きく起こる前の軽症～中等症の患者となり、発症から7日以内に投与しないといけません。しかし、様々な副作用もあり、現時点では、あくまでも重症化を防ぐという位置づけであり、特効薬とは言えません。

迷走神経反射:ワクチンを受けることなどに対する緊張や強い痛みをきっかけに生じる体の反応です。頭がフラフラしたり、吐き気、冷や汗が起こり失神することもあります。

新型コロナワクチンの接種に限らず、ワクチン接種、血液検査等の時にも起こることがあります。健康上大きな問題になることはありませんが、転倒してケガをすることがあります。15分～30分ほど背もたれのある椅子に座って休むか、横になると落ち着きます。過去に気分が悪くなったことのある方は、予診でそのことを伝え、注意しましょう。

政府は当初、外来診療での投与は副作用も多く慎重であったものの、自宅療養者が増え続けていることを受け、令和3年8月25日一定の条件を満たす施設において、外来診療での投与を認可しました。8月25日までに東京都や大阪府、福岡県など全国1400ほどの施設で、合わせておよそ1万人が投与を受けています。とにかく今は、医療体制の崩壊を防ぐことが一番の重要課題となり重症化を防ぐ意味で、抗体カクテル療法に期待が持たれています。参考資料 厚生労働省 NHK 日本経済新聞 発行 大橋針灸療院 おおはし接骨院